

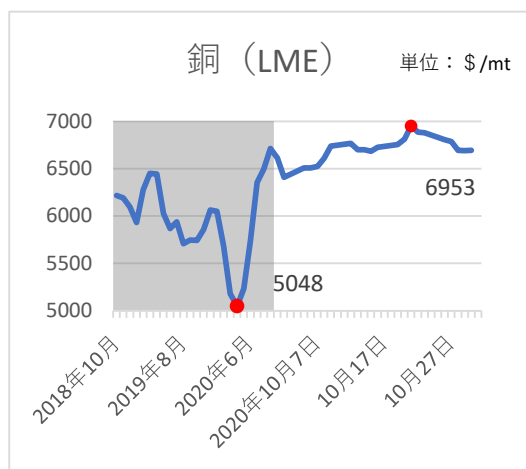
非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

銅

【海外】

1. 価格推移



- ・ 中国の堅調な需要や米追加経済対策期待、チリ鉱山ストにより上昇基調
- ・ 下旬は欧米の COVID-19 感染再拡大で下落

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)

2. 需給動向

国際銅研究会(ICSIG)の10月23日発表によると、2020年1～7月の世界の銅需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～7月の世界の銅需給実績表>

単位:千トン

	2020年1～7月 実績	2019年1～7月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	11,592	11,682	-0.8%	20,223
地金生産	13,975	13,835	+1.0%	24,434
地金消費	14,230	14,186	+0.3%	24,486
需給バランス	-255	-351		-52

(うち、中国の銅需給実績)

	2020年1～7月 実績	2019年1～7月 実績	増減率
鉱石生産	961	949	+1.3%
地金生産	5,629	5,588	+0.7%
地金消費	8,010	7,217	+11.0%

(出典) 国際銅研究会

国際銅研究会(ICSG)の10月19日発表によると、2020年と2021年の世界の銅需給予測は以下の通りだった。

<2020年・2021年の世界の銅需給予測>

単位：千トン

	2020年年間予測 (2020年10月発表)	2020年年間予測 (2019年10月発表)	増減率	2021年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	20,223	20,921	-3.3%	21,151
地金生産	24,434	25,281	-3.4%	24,815
地金消費	24,486	25,000	-2.1%	24,745
需給バランス	-52	+281		+69

(出典) 国際銅研究会

3. 供給障害

◆ ルンディン・マイニング、カンデラリア銅鉱山ストライキで操業停止(チリ)

ルンディン・マイニング(加)は、労働組合のストライキなどを受け、10月20日よりカンデラリア銅鉱山(チリ)の操業を停止したことを発表した。同鉱山では、10月8日よりカンデラリア銅山労働組合(約350人)がストライキを実施、この時点では、操業への影響は出ていないと同社は発表していたが、10月20日よりカンデラリア AOS 組合(約550人)もストライキに加入、さらに一部のカンデラリア銅山労働組合員の暴力行為が発生したことを受けて、操業を停止した。同鉱山の権益保有比率はルンディン・マイニング 80%、住友金属鉱山 16%、住友商事 4%。2019年は11.1万tの銅を生産した。

なお、チリでは10月にBHP(豪/英)のエスコンディーダ銅鉱山とアングロ・アメリカン(英)のコジャワシ銅鉱山において、労使間の協議が合意し、ストライキを回避している。

◆ MMG、キンシビア銅鉱山の採掘を2021年4月まで休止し硫化鉱採掘へ移行(コンゴ民主共和国)

中国五鉱集団(China Minmetals)子会社のMMG(豪)は10月1日、コンゴ民主共和国(DRコンゴ)に保有するキンシビア銅鉱山の採掘を酸化鉱から硫化鉱に移行するため、2020年10月1日から2021年4月まで採掘を休止することを発表した。鉱石処理施設は引き続き操業し、2020年の生産目標は6.8~7.5万tから変更しない。酸化鉱の埋蔵量が枯渇したため、硫化鉱採掘に移行することで、鉱山の操業予定期間は2030年まで延長できるとしている。

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10月1日	10月6日	10月12日	10月15日	10月21日	10月27日
750	730	760	750	770	750

2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	131,241 t	-3.1%	+9.8%
出荷	146,923 t	+10.6%	+13.7%
在庫	100,061 t	-13.6%	+4.6%

(出典)日本鉱業協会受払

生産は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は4か月連続の増加となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は3か月連続の増加。内訳は内販が前月比25.7%増、前年同月比22.4%減の6.1万tで、それぞれ3か月ぶりの増加と15か月連続の減少。輸出は前月比2.0%増、前年同月比68.6%増の8.6万tで、それぞれ5か月連続の増加と10か月連続の増加。内販のうち電線向けは前年同月比21.7%減の4.1万tで12か月連続の減少、伸銅品向けは23.7%減の1.8万tで18か月連続の減少。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は9か月連続の増加となった。

3. 需要部門別動向

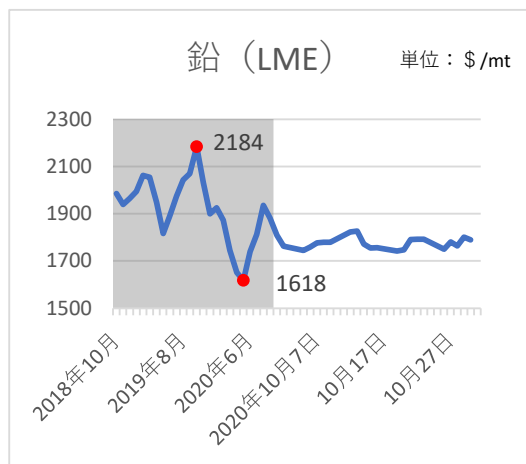
(一社)日本電線工業会によると、2020年9月の銅電線出荷は前年同月2019年9月比12.5%減の5.3万t(推定)と12か月連続で減少した。うち内需は前年同月比12.0%減の5.2万tで8か月連続の減少、輸出は27.4%減の1,300tで9か月連続の減少。内需の部門別では、電気機械が25か月ぶりの増加、通信が2か月ぶり、電力が3か月連続、自動車が6か月連続、建設・電販が8か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年9月の伸銅品生産は前年同月2019年9月比19.1%減の5.0万t(速報)と22か月連続の減少となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比14.7%減で5か月連続の減少。自動車端子向けの黄銅条は16.0%減で20か月連続の減少。コネクタ向けの青銅板条は9.7%減で5か月連続の減少。エアコン向けの銅管は29.9%減で8か月連続の減少となった。

鉛

【海外】

1. 価格推移



- ・ 前月から引き続き \$ 1,800 近辺を推移
- ・ 10月19日は6月以来の安値となる \$ 1,742.50

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会 (ILZSG) の10月28日発表によると、2020年1～8月の世界の鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～8月の世界の鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	2,866	3,073	-6.7%	4,501
地金生産	7,510	7,937	-5.4%	11,661
地金消費	7,307	7,978	-8.4%	11,385
需給バランス	+203	-41		+276

(うち、中国の鉛需給実績)

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率
鉱石生産	1,216	1,260	-3.5%
精鉱輸入	452	604	-25.3%
地金生産	3,097	3,123	-0.8%
地金輸入	24	101	-76.5%
地金消費	3,096	3,162	-2.1%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の10月21日発表によると、2020年と2021年の世界の鉛需給予測は以下の通りだった。

<2020年・2021年の世界の鉛需給予測>

単位：千トン

	2020年年間予測 (2020年10月発表)	2020年年間予測 (2019年10月発表)	増減率	2021年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	4,501	4,942	-8.9%	4,719
地金生産	11,661	11,958	-2.5%	12,080
地金消費	11,385	11,903	-4.4%	11,888
需給バランス	+276	+55		+192

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10月1日	10月7日	10月13日	10月27日
255	252	255	249

2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	16,892 t	-3.1%	+0.2%
出荷	19,144 t	+25.3%	+26.2%
在庫	20,610 t	-10.2%	+4.9%

(出典) 日本鉱業協会受払

生産は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は3か月ぶりの増加となった。出荷は輸出の増加により前月比、前年同月比ともに増加。前年同月比は2か月連続の増加となった。在庫は前月比は減少、前年同月比は増加。前年同月比は5か月連続の増加となった。

3. 需要部門動向

8月の自動車生産台数は前年同月比18.0%減の55.6万台となり11か月連続で前年同月を下回った。また、二輪車生産台数は前年同月比21.7%減の2.9万台となり、7か月連続で前年同月を下回った。

(一社)電池工業会によると、8月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で155.2万個(前年同月比10%減)と11か月連続で減少、自動車用以外の鉛蓄電池も36.2万個(20%減)と7か月連続で減少した。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は191.4万個(12%減)と11か月連続で減少した。

鉛関連製品生産統計(2020年8月分=令和2年8月分)

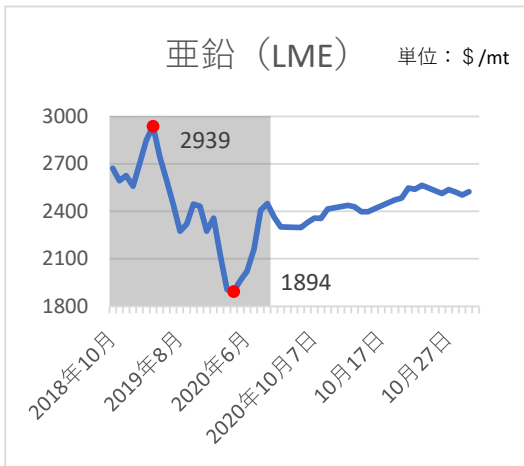
	2020年8月	2020年7月比	2019年8月比
自動車	556,276台	-20.3%	-18.0%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	11,788 t	-20.6%	-6.3%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

亜鉛

【海外】

1. 価格推移



- 中国の堅調な需要や米追加経済対策の期待により上昇基調、10月23日は2019年11月以来の高値となる\$2,565.5

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)

2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の10月28日発表によると、2020年1～8月の世界の亜鉛需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～8月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	7,813	8,461	-7.7%	12,329
地金生産	8,837	8,806	+0.3%	13,597
地金消費	8,438	8,963	-5.9%	12,977
需給バランス	+399	-157		+620

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率
鉱石生産	2,626	2,767	-5.1%
精鉱輸入	1,288	927	+39.0%
地金生産	4,008	3,920	+2.2%
地金輸入	288	408	-29.2%
地金消費	4,227	4,233	-0.2%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の10月21日発表によると、2020年と2021年の世界の亜鉛需給予測は以下の通りだった。

<2020年・2021年の世界の亜鉛需給予測>

単位：千トン

	2020年年間予測 (2020年10月発表)	2020年年間予測 (2019年10月発表)	増減率	2021年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	12,329	13,638	-9.6%	13,143
地金生産	13,597	13,993	-2.8%	13,986
地金消費	12,977	13,801	-6.0%	13,523
需給バランス	+620	+192		+463

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

【国内】

1. 建値推移(千円/t)

10月1日	10月6日	10月9日	10月15日	10月20日	10月26日
304	295	301	307	313	325

2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	44,711 t	+1.2%	+0.4%
出荷	45,105 t	+3.6%	-8.1%
在庫	66,929 t	-0.6%	+11.1%

(出典) 日本鉱業協会受払

生産は前月比、前年同月比ともに2か月連続の増加となった。出荷は内販の増加により前月比は増加。前年同月比は内販の減少により、2か月ぶりの減少となった。在庫は前月比は減少、前年同月比は増加。前年同月比は13か月連続の増加となった。

3. 需要部門動向

8月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比26.1%減の59.0万tとなり11か月連続で前年同月を下回った。

(一社)日本伸銅協会によると、2020年8月の伸銅品生産は前年同月比31.1%減の36,767t(確報値)と21か月連続の減少となった。黄銅製品では、黄銅条が39.0%減の4,088tで19か月連続の減少。黄銅棒が32.3%減の8,975tで7か月連続の減少となった。

亜鉛関連製品生産統計(2020年8月分=令和2年8月分)

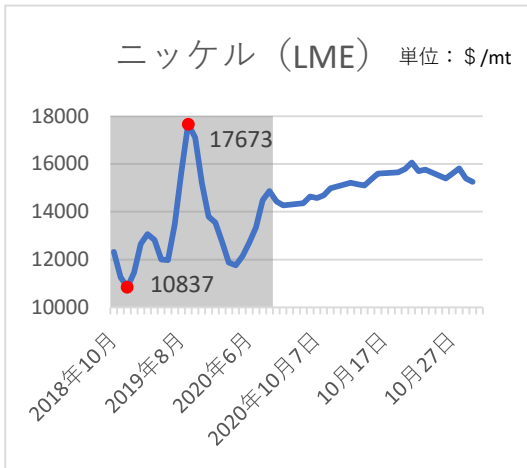
	2020年8月	2020年7月比	2019年8月比
亜鉛めっき鋼板	590千 t	+16.6%	-26.1%
黄銅製品	14,707 t	-12.0%	-35.1%
亜鉛ダイカスト	749 t	-3.7%	-42.2%
酸化亜鉛(亜鉛華)	1,722 t	-42.2%	-48.0%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

ニッケル

【海外】

1. 価格推移



- 中国の堅調な需要や米追加経済対策の期待により上昇基調、10月21日は2019年11月以来の高値となる\$16,064

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)

2. 需給動向

国際ニッケル研究会(INSG)の10月23日発表によると、2020年1～8月の世界のニッケル需給実績は以下の通りだった。

<2020年1～8月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率	2020年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	1,500	1,628	-7.9%	2,352
地金生産	1,585	1,560	+1.6%	2,436
地金消費	1,487	1,593	-6.6%	2,318
需給バランス	+98	-33		+117

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2020年1～8月 実績	2019年1～8月 実績	増減率
鉱石生産	69	69	-0.4%
地金生産	475	534	-11.1%
地金消費	862	869	-0.9%

(出典) 国際ニッケル研究会

国際ニッケル研究会 (INSG) の 10 月 13 日発表によると、2020 年と 2021 年の世界のニッケル需給予測は以下の通りだった。

<2020年・2021年の世界のニッケル需給予測>

単位：千トン

	2020年年間予測 (2020年10月発表)	2020年年間予測 (2019年10月発表)	増減率	2021年年間予測 (2020年10月発表)
鉱石生産	2,352	2,393	-1.7%	2,804
地金生産	2,436	2,476	-1.6%	2,586
地金消費	2,318	2,522	-8.1%	2,518
需給バランス	+117	-47		+68

(出典) 国際ニッケル研究会

【国内】

1. メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	4,670 t	-15.3%	-19.0%
出荷	5,099 t	+39.9%	+7.2%
在庫	7,410 t	-5.5%	+11.7%

(出典) 日本鉱業協会受払

生産は前月比が 5 か月ぶりの減少、前年同月比は 2 か月ぶりの減少。出荷は前月比前年同月比ともに 2 か月ぶりの増加。出荷の内訳は特殊鋼向けが前年同月比 58.7%減で 5 か月連続の減少となった。在庫は前月比が 5 か月ぶりの減少、前年同月比は 5 か月連続の増加となった。

2. フェロニッケル生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

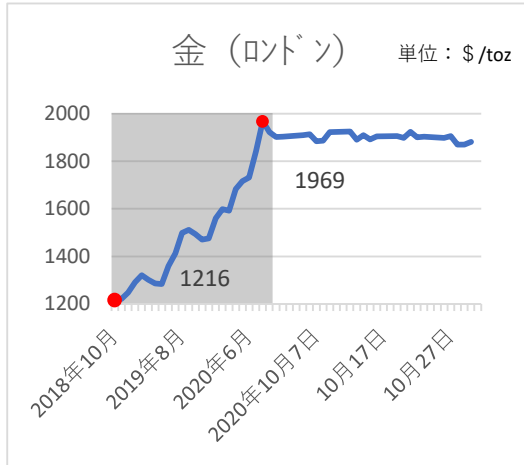
	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	2,062 t	-30.3%	-42.8%
出荷	3,529 t	+12.1%	-7.8%
在庫	6,589 t	-18.2%	+1.7%

(出典) 日本鉱業協会受払(ニッケル含有量ベース推計値)

生産は前月比が 2 か月ぶりの減少、前年同月比は 7 か月連続の減少。出荷は前月比が 3 か月連続の増加、前年同月比が 9 か月連続の減少。在庫は前月比が 3 か月連続の減少、前年同月比は 26 か月連続の増加となった。

金

【海外】 価格推移



- ・ 安全資産とされる金の相場は依然として高水準
- ・ 8月の史上最高値 \$2067 からは下落し、前月に引き続き \$1,900 近辺を推移

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)

【国内】

1. 建値推移(円/g)

10月1日	10月2日	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	10月12日
6,433	6,473	6,474	6,524	6,393	6,455	6,503	6,570
10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日
6,525	6,413	6,439	6,490	6,467	6,485	6,513	6,484
10月23日	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日		
6,441	6,433	6,455	6,432	6,325	6,305		

2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2020年9月分=令和2年9月分)

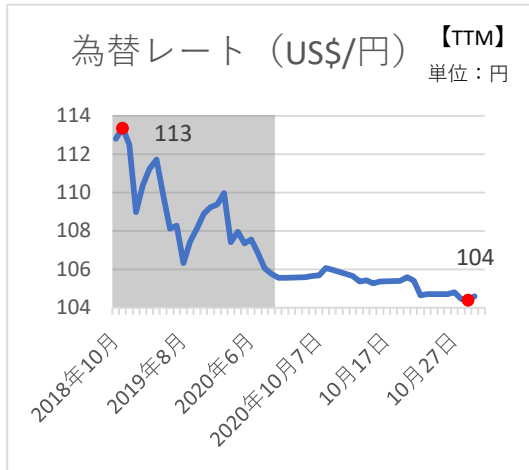
	2020年9月	2020年8月比	2019年9月比
生産	9,234kg	+10.0%	+0.8%
出荷	9,333kg	+13.2%	+16.8%
在庫	4,012kg	-2.4%	-27.2%

(出典)経済産業省生産動態統計調査

生産は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の増加となった。出荷は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月ぶりの減少、前年同月比は6か月連続の減少となった。

為替相場

為替相場推移



- ・ 前月から引き続き前半は \$ 1 = 105 円台を推移
- ・ 下旬は米追加経済対策期待の後退や COVID-19 再拡大などにより下落

(2018年10月～2020年9月の値は月平均)